

正月二日、一、去正月元旦

右御供養に預りました。忝存じます。

先年大法を求めてお滝の御修行中御尊父様の広

宣流布の為に勧けとのお託宣を受けられました。

其御言葉に副はんが為に、米大陸平和行進に御参

加の為に渡米遊されました。御孝養の御志隨喜に

堪えませぬ。御帰朝の日を御待ちします。

さて三月二十八日、別府実相寺山に聖楞伽國駐

日大使を招て起塔供養の地鎮祭を挙行しました。

四月五日、吉野山に入ります。

所やなぎ様

南無妙法蓮華經

吉野山

四月八日

日達

今朝紀ノ国屋専務に由り貴師の電話を伝へ承り

ました。

○. 各々レバ  
次の行動は現地の指導者の意見に従つて米国平和運動の仕事として展開すべきでしよう。ゼム神父等を信頼して随順してゆけばよいでしょう。

二、落慶供養は工事中止となれば当然挙行されませぬ。然れども平和運動者が大集会を開くことは有意義でしょう。其大会に九輪、宝冠を祀ることとは差支無いでしょう。

三、貴師等日本人の止住する処も将来にかけて必要でしうから此際適当な土地を求めて買収すべきでしょう。現地の人に依頼して至急探し出して天幕小屋でも作りなさい。既成建築でもよいでしょう。価がくはすぐにでも準備致します」

已上、返電用件であります。

四、日本内地も政府の軍備増強政策に反抗し

て一般庶民の軍縮運動が盛り上がりつつあります。日本の平和運動を世界平和建設の柱とならしめんと祈つて居ります。

五、聖楞伽國の仏教徒が日本山の活動に隨喜して、明年二月には宝塔落慶供養を三ヶ所に挙行します。

六、日本も東京多摩の仏殿の花壇を改造して起塔供養します。地所が稍狭なれども、十七米の塔は立つの事にて早速工事に着手します。紀ノ国屋の社長が建築主任となります。一金五百万円以下建築費とする条件をつけました。

七、日本は桜の花盛りにて拙子も去五日已來參籠して昨今は月並断食中、健康状態上乗。去三月二十八日、別府の宝塔定礎式を挙行しました。

塙 行幸殿

宝塔建立工事禁止命令に従つて工事を中止する

事は必しも敗北では無い。軍港建設と平和建設との対決である。政府と民衆との衝突である。殺人と救済との競争である。政府が軍拡競争を政策とする事は、限界がある。民衆が平和を希望する事は際限が無い。たとえ暴力、権力が一時勝利を取れても、それは春の夜の夢に過ぎない。非暴力運動、平和建設の精神的原則たる宗教の生命は寿命無量である。いかなる困難をも忍の一字を以つて受けとめて、やがて花咲く春を待つ。最後の勝利は彼岸に在る。工事禁止命令の敗北はその時にわかる。其時の審判は、善か悪かの分別である。暴力、権力の發動が善であった例は無い。それを想ふ時に我等にはいかなる情況の下に在つても敗北を感じない。勝利の時間的展開を待つ計りである。いつも勝利である國家権力を恐れて諫懐せざる者が、所謂敗北者である。宝塔建立も平和者の大集会も國家権力の非道を諫懐する所以である。勧持品に日く、

多分英文と誤がずれていて、

「私は是れ世尊の使なり

衆に処するに恐るる所無し

我當に善く法を説く可し

願くは仏安穩に住し給へ

我世尊の前

諸の來り給へる十方の仏に於て

是の如き誓言を發す

仏自ら我が心を知るしめせ」

南無妙法蓮華經 吉野山 四月八日 日達

一忠師の報告書到来致しました。

アンボーラは古代仏教繁昌の地の由、仏教復興の好機に日本山が起塔供養の使命を被りし事は大慶に存じます。早速地鎮祭、起礎式を挙行しなさい。

ヌワラエリヤは高原地帯景勝の地でもあり仏足山の宝塔とともに将来発展の地であります。肝要な事は現地住民の教化であります。両方とも経費

は逐次好便を以て送ります。

アンボーラは、ミムラ・ラツナ長老に一切を任せなさい。ヌワラエリヤは誰か適任者があれば起用しなさい。

拙子は六月渡米迄は内地巡錫の予定となりました。

伊藤 博殿

南無妙法蓮華經 吉野山 四月八日 日達

御手紙到来披見致しました。

石橋老師帰朝されましたが容態重大なりとて波

木井病院にて療養中であります。

インドネシア開教の件に就て、先月丹羽師が現地に調査に往きました。其報告に由れば彼我的構想に大差が有つて開教は中止すべき必要があると云事にて、甲市の行摶師は当分此のまま甲市道場に止住して道場繁昌に精進すべきでしょう。最近多少道場も復興の兆が見えます。ハ木師も晩年を

あやまりました。篠崎師も大道心を發さねば一期出家の意義を失います。

ニユーデリーの起塔供養はインド政府の意見が腑に落ちないから中止に決しました。今井師が其為に近日渡天します。

竹林精舎の工事魔障なく進捗の由、隨喜致します。拙子は四月、五月は日本内地、六月に米国巡錫、九月英國、十月印度の予定であります。

甲府の佐藤師は先日一人の青年を隨行してアメ

リカの平和行進に出発しました。

在天諸師御中

## 天鼓 五月号

(復第348号)

昭和五十七年五月一日

印刷 定価一部 四百円 (送料共)

一年 四千八百円 (毎月発行)

東京都新宿区早稲田南町五  
六

発行人 松谷被鎧  
印刷所 興学社